

80歳以降の高血圧は認知機能を保護する可能性について

中年期の高血圧は晩年の認知症リスクや、心臓発作・脳卒中のリスクを高めますが、80代または90代で発症すると90代での認知機能低下リスクが低減することが示唆され、「Alzheimer's & Dementia」オンライン版に掲載されました。



高血圧（収縮期血圧 140mmHg 以上、拡張期血圧 90mmHg 以上）を 80 歳以降に発症した人は、90 代で認知症を発症する可能性が正常血圧の人に比べて 42%低い結果となりました。

また、90 歳以降に高血圧を発症した人は、認知症を発症する可能性が高血圧を認めなかった人よりも 63%低い結果となりました。

この関連性は、患者が降圧薬を服用していても変わりませんでした。

